

広報よもぎた

内容

- 防犯弁論大会・蓬田村交通安全大会……2～4
- 中学校大運動会……5
- 幼稚園祭……6～7
- 郡身障スポーツ大会・むつ湾一周駅伝……8～9
- 村敬老会……10～11
- とっちや元気ですか……12～13
- ヤングメッセージ・お知らせ・折々の歌……14～15
- 戸籍の窓口・村民文芸欄……16

No.152



どこまで続く不作の秋

9月
10月
11月

昭和58年

	俵数
1等米	39,350
2等米	12,787
3等米	980
合計	53,117

四年続きの不作の秋

十月に入り稲の刈取り作業が急ピッチで進められました。三年続きの冷害を克服するため、気象関係の講演会や農時講習会を開催し、稲作りの基本技術の習得に努めました。しかし、今年も六月・七月と異常低温にみまわれ、村ではいち早く対策本部を設置し、青空教室などにより肥培管理の徹底をはかり、その効果も期待され、加えて八月の高温に恵まれたことから、心配された遅延型冷害も克服できたものと思われましたが、刈取りが進むにつれて、昨年以上の障害不稔となりました。

第三一回蟹田地区 防犯弁論大会

九月九日午前九時三十分より、蓬田中学校体育館において蟹田地区防犯弁論大会が開催され、蟹田地区の中学校より一七名の弁士が参加しました。

この大会は、犯罪と青少年の非行の防止をテーマに毎年開催されているものです。

審査の結果、団体の部で蓬田中学校が優勝しました。

個人の部は今別中学校三年の島中恵佐子さんの「狂った歯車」が一位となりました。

蓬田中学校は、三位に武井まゆみさんの「世界コミュニケーション」に思う、五位に角山桂一さんの「ルール無視は人間の恥」が入賞しましたので、一位の弁論と一諸に紹介します。

第一位

「狂った歯車」

今別中学校三年

島中 恵佐子

「恵佐子、絶対悪いことスナド」と、今日祖母が畑に出かけていきました。

私はある事情で、三才の頃



から祖父母に育てられていました。祖父は現在六十八才、祖母は六十五才です。二人とも体が弱く、いつも入退院を繰り返しています。こんな祖父と祖母ですが、私にさみしい思いをさせたくないと、とても大事に育ててくれました。祖父のおかげで、いままで私はつらい思いをすることもなく、特別人に迷わくをかけることなく、むしろ明るく学校での生活も、まじめにやっています。

ところが、正しいリズムで回転していたはずの心の歯車が、三年生の夏休みに、ちょっとした心の油断から正しくみ合わなくなったのです。八月五日、ねぶた祭りもあと二日で終ろうとしているとき、中学校の最後の思い出と、ねぶた祭に参加しました。笛や大鼓のリズムにのって、久しぶりのねぶたを、とても楽しく、友達十人位で思いっ切り踊りました。皆さんの興

奮はさめ、ねぶたが終わってもだれひとりとも家へ帰ろうとしませんでした。神社で胆試しをしないか、といった友達の家に皆んなで賛成しました。楽しいことにつられて、時間がたつのはあつという間でした。それから、どれ位たつたのでしようか。友達の一人がきて、先生や家の人達が私たちを捜しているというではありませんか。当然です。時計を見ると、もう夜の十二時を過ぎていました。私たちは、とんでもないことをしてしまつたのです。先生方が捜しているということは、今私達がここにいるということもわかつているだろうし、どうやってごまかしたらよいのか、ごまかしても必ずバレてしまうし、かといって、ほんとうの事をいって、いい出す勇気もないし、先生に何と説明をしたらよいのか、祖父や祖母に何と行って謝つたらいいのかと頭の中でぐるぐる回ってしまいました。祖母が帰りの遅いのを心配して、先生や友達に連絡し、今来るか、今来るかと寝ないで待っていてくれたそうです。自分のちよつとした心の油断に対して、とんでもない心配をか

まり迷わくをかけたことがなかったもので、祖父や祖母の悲しそうな顔を見たときは、ほんとうにすまないと思いました。

十四年間、母のいないつらさや、寂しさを一度も感じさせないで育ててくれたことを忘れません。私は何と悪い娘なのだろうと思いました。

「恵佐子、今度から絶対するなよ、せつかくここまで育て、テキ・タンダ・ハデ」と涙ぐんで話す祖母を見て、私の事を一番心配してくれたのは、やっぱり祖父母だったのか、いや私には祖父母しかいないんだ、と胸がいっぱいになり、涙があとからあとから流れてきました。今まで全ての事に頑張っていた事が、今回のたつた一度の失敗で全てガラガラと音を立てて崩れていくように感じた。それと同時に、祖父母に對してどうしようもなく申し訳ないという気持ちが一ぱいになってきました。私は、かみ合わなくなった心の歯車が、正しいリズムで回転できるように、これからは一日一日を大切に生活し、生活が美しい響きの歯車に早く活動させたいと思っています。

第三位

「世界コミュニケーション」 ン年に思う」

蓬田中学校二年

武井 まゆみ

美術の宿題をしていると、ふいにコミュニケーションという言葉が頭に浮かんできました。前に友達にコミュニケーションでどんな意味?と聞かれて、その時は私もはっきりわからなかったのですが、人の和のことじゃない。とだけ答えていたのを思い出したのです。私は絵筆を動かしながら、父と妹に聞いてみました。「対話、つまり話し合いのこと、それとふれ合い。父はこう答えてくれました。妹に「コミュニケーションでどんなことかわかる。」という、先にエスカレーションしてわかる。」と聞き返されてしまいました。しばしの笑いの後、「全然わかんない。」と頼りない答が返



ってきました。今度は辞典で調べて見ると「言葉や文字などを使って、人と人が気持ちや意見をとりかわすこと。」やっぱり父の答が正解だった訳で、私の考えとはちよつと違っていました。でも結局は同じことだと私は思っています。人と人が気持ちをとりに交わすところこそ、人の和の始まりだと思つたからです。

丁度今年が「世界コミュニケーション年」に当たっています。今までは「こんなこと」と軽く考えていましたが、いい機会なので幾分深く考えてみることにしました。人の和というのは、相手と話を交わすことが第一、自分から話かけることができないならば、「コミュニケーション」どころか、自分の殻に閉じ込められてしまふことになりかねません。ここで私は自ら反省しました。

小学校の頃、あんなに積極的で活発だったのにくらべ、今はすつかり、ちんちあくなつてしまつた気がします。授業中手を上げるのもチラホラだし、学級会に発表することもめつたにありません。自分一人だけ手を上げるのは恥しいとか、「周りの人が発表しないのに何故自分だけ」などと余計なことを考えてしまいます。つまり周りにばかり気を取

られ、いつの間にか消極的になつて自分の気が付いたのです。周りを気にすることも時には必要でしょうが、そのために自分を内側に引つ込めてしまふのは、やっぱりだめだと思ひます。反対に周りのことは気にせず、自分本位ばかり考えることもいけない。私の場合、必ずといつていいほどどちらかにかたむくのです。でも自分でおおそうと思つているんだからもう少し頑張つて見ます。

「みんなで広げよう世界の輪」よく聞く言葉です。この言葉も「コミュニケーション」に関係があります。世の中には言つていることと、やつていふことがチグハグなことがあります。片方の国とは友好だと言つているのに、一方では、いがみあつていふのです。「どうもおかしい」と私は思うのです。口では平和を訴えながら、戦争をしたり、原・水爆を作るのをやめようとしてません。これだといつまでたつても、「みんなで広げよう世界の輪」とはならないではありませんか。世界の輪は、ただ一つでなければいけないのです。みんな協力してつくる大きな一つの輪でなければならぬのです。いたるところで戦争や、もめごとを起している人達は、一つの輪をつ

くろうとしていふ考えに逆行しています。互いに相入れなく、三つの輪や四つの輪をつくろうとしているのにほかなりません。ですから、私は、私なりに考えてみます。

「世界コミュニケーション年」というのは、ほんとうの意味で、世界の輪をつくるにはどうしたらよいのか、みんなが考える年なのだ。と、みんな、大きな輪ができないうちは、おそらく、毎年がコミュニケーション年ではないばと思ふのです。

私は対話を通して、相手を理解し、自分を理解してもらふことから始めるつもりです。私の身近に起こる非行や家庭内暴力にしても、普段から人間的なふれあひを大事にしていれば起こらないのでは、と思ふのです。「おはよう」、「さようなら」、「元氣」この短い言葉からだつて、ふれあひは生まれるのです。声を出す代わりに「ポン」と肩をたたく、これだつて小さなふれあひです。

さあ、身近なところから始めましょう。実行しないことには何も生まれません。一人一人が小さな石ころになつて、水面が波紋を描くように、大きく、大きく輪を広げていこうではありませんか。

第五位

「ルール無視は人間の恥」

蓬田中学校一年

角山 桂一

これからの日本は、高齢化社会が訪れようとしています。老人が若者より多くなる時代ですから、福祉問題等が一層深刻になつてくるでしょう。そのときにあつて、ぼくなどの考えをいくつかのべてみたいと思ひます。

老人に親切にしてあげなければいけないことは当然のこととて、だれも心の中には老人に対する思いやりや、いたわりの気持ちがあると思ひます。しかしながら、その思いやりやいたわりの気持ちが、とさによつては、さかなでされるようなこともあります。僕が実際に出合つたことですが、それは、青森から帰つてくる日のことでした。僕は駅



のホームに並んで待つていました。するとおばあさんたちがきて列の前の方にかたまつて話をしはじめました。ぼくには割込みをしようとしているのだなあと、ピンとききました。後の人たちは、「ズルイなオラ、だちは、さつきからキチンと並んで待つていふのに」という声が聞こえました。汽車がホームに入つてくると、おばあさんたちは、後の人たちに、「こら押すな、押すな。」といひながら、さつきと乗つてしまひ、涼しい顔で座席に座つていふではありませんか、おばあさんたちが、こんなこととするのは汽車で立つていふも、簡単に席を譲つてくれる人がいないせいかもしれませんが、だからといつて、不正な行為は許されるものではないとわかつていても、僕はまだ見ていだけでした。これからも僕には注意することは、どうい無理でしょう。相手がお年寄だからです。割込みはいけない、注意しても弱い者いじめをしているみたいに思われるし、後のほうでズルイな、といつていた人たちがさえ、そこまでしなくても冷たい視線で見られるかもしれせん。それに僕自身にも、このことに関して反省しなければ

ばならない点があるからです。正直なところ小学生の頃は、平気で割込みはしていました。並んでいるとき、後から前へつめて空いている窓から荷物を投げ入れて席を取ったりしていたものです。もちろん今はやっていません。恥というものは知っていますからです。母はそうやって席を取るとほめるのです。母は自分から割込んで席を取るのを見たことがありません。恥というのを知っているからです。でも結果的には、僕に割込みさせて、ほめているのだから、母自身が割込みをしているのと同じです。他の人も割込みはやっています。早く乗をしたいからという気持ちでやらせているのです。母は乗をしたいけれど、恥かしいから子供にやらせて恥をかかずにすませようとしています。僕が小さかった頃は恥というものを知らなかったのですが、人間は年をとるにしたがって、一度知った恥というものを忘れていくものなのかも知れません。母も年をとったのでそうなったのかも知れませんが、まだ幼ない僕たちを利用するだけの恥は知っています。割込みをしたおばあさんたちは、恥というものをすっかり忘れてしまったのかも知れませんが、だ

から当然の権利のように割込んでくるのでしょうか。恥を忘れてしまった人間ほど醜いものはないと思います。あと二十年位してこんな老人ばかりの社会ができたなら、こんな老人たちはどうするのでしょうか。僕は老人だからと理由で席を譲ったことはありません。それは老人がいつばいいて、どの人に席を譲ればいいか迷うし、誰か一人に席を譲ると他の老人が見合うように感じるのです。又、老人の中には自分で席を譲られる程体は弱ってはいないと考えている人もいます。そんな人にも席を譲ると失礼にあたるのではないかと考えられるからです。老人ばかりの社会で生活することになるこれからの老人は、老人だからということに甘えず、社会の秩序を乱さないように生きていかなければならないと思います。校内暴力や家庭内暴力、非行少年や非行少女をうつされた現在の無責任な親たちは、あと二十年もすれば丁度老人の仲間入りをします。二十年後の僕は老人の非行問題に又頭をいためるような気がしてなりません。

蓬田村交通安全 村民大会開催

九月二十六日午後一時三十分より、玉松公民館において蓬田村交通安全村民大会が開催されました。大会に先立ち、午前八時四十分中沢より高根までパレードを行いました。

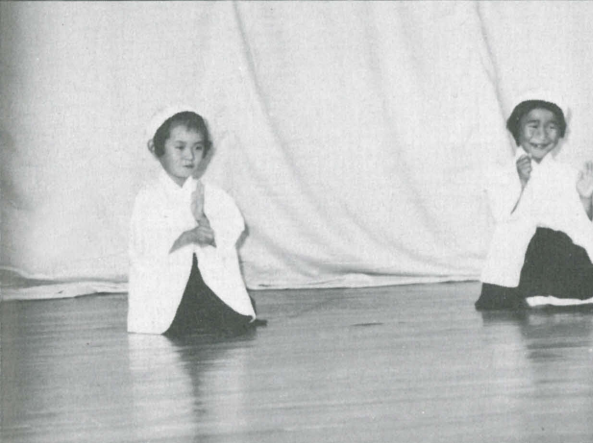
大会は、交通少年団員、交通安全母の会会員ら百九十人が参加して行なわれ、交通事故犠牲者に対する黙とう、大会長である森村長が「目下七百六十日間継続中の交通事故死亡ゼロの記録を、一日も長く続けるため、村民一人一人が交通規則をよく守り、事故を起さない、遭わないようにして明るい村づくりを推進していこう」とあいさつ、藤原亀吉蟹田警察署長、小島要市蟹田地区交通安全協会長らが「蓬田村は管内で一番交通量の多い所だが、死亡ゼロを一日でも長く継続して管内の模範となつてほしい」と激励した。最後に交通指導隊員の森清秀さんが「交通事故のない郷土を実現するため、村民総ぐるみで立ち上げます」と大会宣言を読み上げ、交通少年団員の津島重樹君も「交通ルールを守り、安全の輪を広げます」と宣誓しました。大会終了後、交通安全母の会会員が五松公民館前の国道を通行中の車にマスクット人形を配りました。

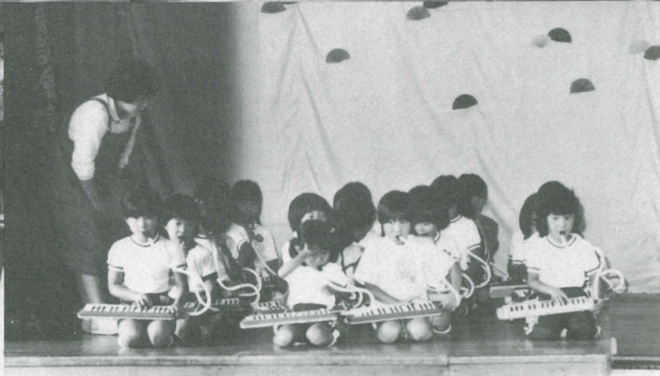


9.4 蓬田中学校大運動会

培え友情・翔け力







東地区心・身障害者(児)スポーツ大会

九月八日、午前十時より蓬田村総合グラウンドにおいて、東地区心・身障害者(児)スポーツ(レク)大会が開催されました。

東地方福祉事務所管内の心身に障害のある人、約五百名が参加し、百メートル競走、六十メートル競走、ふうせんわり、パン食い競走、巾跳、槍正確投、玉入れ競技と楽しい一日を過ごしました。

総合成績の一位は三厩、二位平館、三位蓬田でした。





蓬
田
村
敬
老
会

婚姻後50年健在夫婦						88歳 米寿	90歳以上の 長寿者	顕 彰 者 名 簿					
稲 葉 み ち ち よ (68) (72)	田 中 と し (67) (69)	吉 崎 か ね (68) (75)	柿 崎 き よ よ (70) (73)	越 田 夕 サ (69) (73)	福 田 ま つ (70) (75)	久 慈 か せ	藤 本 き な		青 木 豊 作 め	張 間 そ め	柿 崎 ナ ホ (91)	越 田 ミ サ (91)	小 鹿 キ ソ (92)
高 根	瀬 辺 地	蓬 田	広 瀬	瀬 辺 地	長 科	広 瀬	長 科	阿 弥 陀 川	長 科	広 瀬	広 瀬	長 科	瀬 辺 地

蓬田村長寿者番付

田中 なか	M24.7.14	横綱	小鹿 キソ	M24.8.28
越田 ミサ	25.2.2	大関	柿崎 ナホ	25.6.6
張間 そめ	28.8.7	関脇	青木 豊作	28.11.25
藤本 きな	29.2.20	小结	久慈 かせ	29.3.23
山館 キソ	29.4.10	前頭1	越田 きそ	29.4.15
安田 りゑ	29.6.30	2	飯田 みさ	29.9.21
工藤 きせ	30.1.24	3	田中 ヤサ	29.3.8
八幡 たけ	30.9.18	4	八戸 なよ	30.9.19
名古屋 ヲミ	30.9.20	5	川崎 なみ	30.11.17
坂本 米作	30.11.20	6	三上 よし	30.12.3
中川 たき	30.12.5	7	木村 粕藏	31.1.5
小松 アサヨ	31.1.26	8	山谷 徳三郎	31.3.26
川崎 みゑ	31.5.1	9	吉崎 とら	31.5.23
渡部 ハキエ	31.7.20	10	越田 リマ	31.11.25

田中なか (92)
(自宅にて)



小鹿キソ (92)
(敬老会にて)



S58. 10. 1 現在

77歳・喜寿・老人安全つえ交付者

七戸	太田	田中	木浪	成田	張山	成田	大宮	細谷	工藤	宮田	小松	青木	室谷	青木	青木	八戸	八戸	三上	坂本	坂本
ツヨ	勝太郎	みさ	ナサ	与治郎	ナミ	チヨ	ヒテ	友次	政太郎	与三郎	要助	スナ	コヨ	みさ	豊四郎	ソダ	重次郎	イソ	弥作	きよ

広瀬郷
辺
瀬地沢

蓬
田

阿
弥
陀
川

中
沢



「おとうさんたちへ」

一年 もりかずも

おとうさん、おげんきですか。かずもともげんきです。おねえちゃん、なつやすみにおとうさんのはたらいいてるところを、みてきたそうですが、かずもとも、おとうさんがきかいにのっているところをみたいです。かずもとはうんとべんきようして、まっています。

九がつに、むつこおばちゃん、のけっこんしきに、とうきようへいくからおとうさんたちのかおをみにいいので、たのしみにしています。

おとうさん、おかあさん、おじいさん、げんきをだして、はたらいいてください。

「おとうさんへ」

二年 かわうちあき

おとうさん、お元気ですか。

わたしも、おかあさんたちもげんきです。

おとうさんは、あみをつくったり、さかなをとったりしているのでしょう。わたしもがつこうでいっぱいべんきようしたり、ごはんのたべるのを11月1日に、すいぞくかんへいくとやくそくをしたことわすれないですよ。

さとるや、みさや、まきもすいぞくかんにつれていってくれることを、たのしみにしているんだからね。おとうさん、かぜをひかないようにしてください。

「おとうさんへ」

一年 たなかみねこ

おとうさん、おげんきですか。みねこもげんきです。なつやすみもおわり、まいにちげんきでがつこうへいっています。きよう、とみこさんのいっているほいくしよで、うんどうかいがあつてみんなでみにいきました。とみこさんは、はしるのがはやくて二とうになりました。それから、したのおばあさんに、きんぎよをかつてもらいました。きんぎよのおおきさは、はつせんちぐらいなの。きんぎよは、とてもげんきにおよいでいます。

おとうさん、おかあさんと

ふたりで、おとうさんのかえりをまつています。

「東京へいつている

おとうさんへ」

三年 木野田 晶子

お父さんお元気ですか。晶子も元気です。お父さん晶子は親子のつどいで、お母さんとのぎわこうえんに行つてきました。そしてのぎわこうえんで、すいかわりをしてとてもおもしろかったです。こんどはお父さんといっしょにいってみたいな、でもお父さんは、しごとがいそがしいからまっただめね。そしてしごとをがんばつて、いっしょうけんめいがんばつてください。

晶子もべんきよう、そろばんをがんばるからね。おとうさん、東京はきれいなところですか。こんどしやしんをおくつてくださいね。晶子もいちど東京にいってみたいな。いいとき東京にいっていつててください。晶子は一ども東京にいっただことがないからです。

それでは、お父さん、それまで元気で東京ではたらいいていっしょうけんめいはたらいいてください。

「父さん」

三年 ふくもとひでき

父さん元気ですか、ぼくは元気です。父さんがいなくな

つたら、さびしくなりました。ぼくは、また家にてほしい。ゆきはるは、母さんにおこられると、父さん父さんと、なっています。夏休みに、父さんと、おそびにいっただ玉まつにおよぎにいっただこと、みんまやの海に、かにや、さかなをとりにいっただこと、それからアップルランドへあそびにいっただこと、のぎわこうえんでバッタとりをしたこと、バッタはまだ、いきています。みんなみんな父さんとの楽しかつたとてもいいおもいでです。

東京は、まだあついとおもうけど、びょうきやけがをしないてください。ぼくもべんきようがんばります。

「おとうさんへ」

三年 くらやひろゆき

おとうさん、お元気ですか。ぼくもおげんきでまいにち学校にいっただこと、おとうさんは、おぼんに東京からかえつてきました。ぼくはよもぎの駅までむかえにいきました。おとうさんがぼくをみたら、すいぶん太つたといっただこと、ぼくはわらつてしまいました。おとうさんは青森にもつれていきました。おとうさんは八月の十七日に東京にかえつてしまいました。ぼくはとてもさみしいです。こんどは、お

正月でなければかえつてきません。おとうさんも元気でがんばつてください。

「やさしいおとうさんへ」

三年 大高潤子

おとうさん、じゅんこです。おげんきでいるかなあ？ じゅんこは、とても元気でがんばつています。あんしんしてくださいね。

おとうさん、東京はまだあついでしよ。こつちは、もうおやげません。夏休みもおわつちやつたから、また学校へがんばつていつています。じゅんこは、ふじこいつもあそんでいます。ふじこはいつも「おとうさん、どこいっただこと」とききます。「東京おしごとだよ」と教えています。

ふじこも、おとうさんにあいたがつていますけど、じゅんこが、もつとおとうさんにあいたいなあ。お正月になればまた、おとうさんにあえるからそれまでじゅんこもつよい子でがんばるよ。四月になればじゅんこはもう四年生だからおとうさん東京へいかないつて、やくそくしたんだよね。楽しみだなあ。らいねんは、ずつとおとうさんといっしょにいれるもんね。そして、青森へかえつたらうんと楽しいところえつていつてね。トランプもやろうね。じどうし

おとうさん、お元気ですか、ぼくは元気です。父さんがいなくな

やにものせて、ずつとつれて
いってちょうだいね。すいぞ
くかんにもいきたいし、おに
んぎようもかってほしいなあ。
いっばいおねがいがあるんだ。
それまで、じゅんこもいっし
ようけんめいふじこのめんど
うをみてあげて、おかあさん
をらくにさせているから、お
とうさんもげんきでがんばっ
てね。そして、早くかえって
きてね。

じゃ、じゅんこもまた、お
てがみだすからね。おとうさ
んもでんわしてね。

おげんきで、さようなら。
じゅんこのだいすきなおと
うさんへ

「東京へ行ったお父さん」
四年 柳谷 功

ぼくのお父さんは、東京の
ふたばけんせつに出かせぎに
行っています。八月に帰って
来た時は、かばんにいっばい
荷物を持ってきました。

「重かっただろうなあ。」と
思いました。次の日、しんせ
きの家にいきました。ぼくた
ちとなかなか遊んでくれなか
った。「もつとぼくたちと、

遊んでくれたらなあ。」と思
った。そして、しんせきの家か
ら帰って来たとき、お母さん
が、「木、われ」と言ったら
ちやんとやって、「お父さん
は変ったなあ。」と思った。前

までのお父さんだったら、お
母さんが言った時あんまり仕
事やらなくて、今だからお母さ
んが言ったことをちやんとや
って、そして、へいきで七日
間くらい木をわって、木をわ
ってしまつてから、「ペンキ
ぬれ。」と言ったら、ペンキを
ぬって、お父さんは変つた人
に見えて、ビールもあんまり
のまなくなつて、今度は、サ
イダーをいっばいのんできま
した。お母さんは「早くねろ。」
と言うが、お父さんは早くね
ろとは言いません。ぼくは「や
さしいお父さんだ。」と思った。
あさ水族館に行った時、カメ
などしんけんに見ていました。
おとうさんのすきな食物はカ
レーです。ぼくも同じだけど、
「すききらいはしてほしくな
いなあ。」と思いました。
今度、出かせぎに行つて帰
つて来る時は、「早くこい。」
と思いましたが、そして、お父
さんがいないとぼくはさびし
いです。

「でかせぎにいっただお父さ
ん」
四年 八戸 令

八月にお父さんが、かえつ
てきました。ぼくはうれしく
てたまりませんでした。こん
どいつかえるのかなあと思
いました。ぼくのお父さんは、

富山県のどうろ工事をしてい
ます。お父さんがいないとき
びしくてたまりません。たま
におこられるときもあるけど、
おとうさんがいるといえがた
のしくなつて、よるねるとき、
「さとる早くねろ。」と言いま
す。ぼくは「うん。」と言つて
ねます。お父さんは、おこる
とこわいけど、おこらないと
やさしいです。ぼくは、おと
うさんがいるときびしいのに
たのしくなります。よるねる
とき、かとりせんこうをつけ
てくれます。ぼくは、お父さ
んはやさしいなあと思いまし
た。それからまた、かとりせ
んこうをつけて、うれしいな
あと思いました。ぼくのお父
さんは、さしみがすきです。
お父さんはさしみをうまそう
にたべていました。ふろには
いっただお父さんがあがつたら
、「さとるはいれ。」と言いま
す。そしてはいります。ふろには
いっただと、ごはんをたべる
とおいしいです。たべてしま
つたあとは、ちやわんに水を
かけて、お父さんにも水をか
けます。そしてまたお父さん
はでかせぎに行くことになり
ました。ぼくは、またお父さ
んがでかせぎに行くのでさび
しくなります。ぼくはまだい
ればいいのになあと思いまし
た。

「お父さん」
四年 稲葉寛子

お父さんお元気ですか。私
も、お姉さんも、お母さんも、
おばあさんも、おじいさんも
みんな元気です。お父さんは、
八月十三日の朝きて、八月二
十四日に帰りました。今度十
月に帰ってくるので楽しみに
しています。お父さんは、お
ぼんに何も買ってきてくれな
かつたけど、お父さんが帰っ
てきてくれただけでうれしく
たです。家へ帰ってきても
ようじがあつて、やすむひま
がなかったで遊んでもら
いせんでした。あまりおもし
ろくなかつたけどしかたがあ
りません。お父さんは、忙し
いのがまんします。私は、
お父さんつてたいへんだと思
います。去年は北海道で働
いて、今年も、新潟で働いて
くれているからです。お母さん
も、おじいさんも、おばあさ
んも、お姉さんもお父さんに
感じやしています。私は、あ
まりむだづかいしないよう
にします。お父さんがいっし
うけんめい働いたお金な
でいじにしたいと思
います。お父さんも体に気
をつけてください。新潟での
仕事をがんばってください。

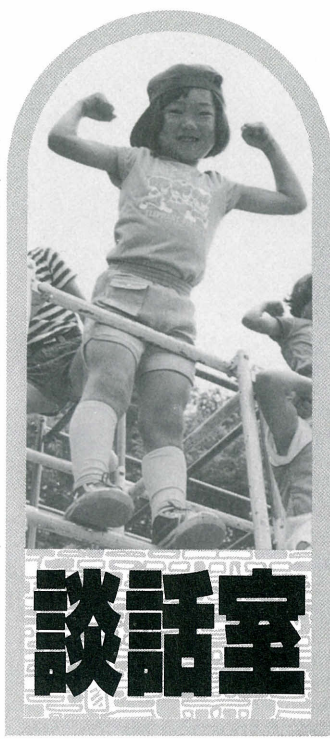
「おじちゃんへ」
五年 坂本智子

おじちゃん、お元気ですか。
私たちの家庭は、みんな元
気です。夏休みに、小学五年
生を買ってくれてどうもありが
とう。私は、買ってもらった
日はとてもうれしくて、夜も
よんでいました。仕事はどう
ですか。けがをしないでやっ
ていますか。けがをしないよ
うにきをつけてやってね。仕
事じやないけど、私たちの田
や畑は、不さくだそうです。
それとなんだか、ものみた
いのが出るけど、なおった？
なおっていないのなら、はや
めになおして下さい。みんな
心配しています。きをつけて
仕事をがんばってください。

子どものためには
毎月第三日曜日
『家庭の日』



ヤング
メッセージ
No.32 松本さき子
阿弥陀川



今年、始めて行われた陸奥

湾一周駅伝大会に出場すると決まった時、とてもいやな気分でした。私でなくても早い人がいるのに、中学生とか、高校生でもさがせばいくらでもいるのに。つといった様な気持ちになつていたのです。でも家族や近所の人達に「ガンバレ」といわれるたびに、少しづつやる気になっていました。そして、少しでも多く練習しなければと思いつつた四・五日ぐらいしか練習

しませんでした。

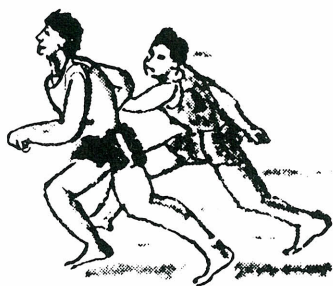
そして、大会の前日、決められている宿に向かう途中私の走るコースを車にゆられながら始めて目にしたのです。私は、もうやめてしまいたくなつてしまいました。山の中で坂道が多く感じられ、最後まで走れるかどうかと心配になつたからです。でもここでにげる様なことをしてはみんなに迷惑する。そして私の走る所はいちばん短い、ここらでいっちょよやつてやる、早か

れおそかれやってみるしか仕方がないということだけしか頭になかったのです。そういうことを考えているうち宿につき、荷物を自分の部屋へもつて行くときには、さつきまでのことが頭の中にはなく、旅行に来た気分でした。

そしてとうとう私の走るときがきました。その前ちよつとだけ体を動かしていたのだけれど、いざ走るといときはなんととも言えない気持ちです。運動会の一〇〇メートルのスタートとはぜんぜんちがつて、まちどうしいのか、早く終つてほしいのか変な気になのです。私のまわりを見渡してみても中学生とか高校生がほとんどで、どう見ても私より早いに決まつてる。だんだんまつている人たちが少なくなつて行きます。同じ様なユニホーム姿が見えて来ました。ああ、とうとう私の走る時です。私のすぐ前には今別が走っていました。私はその人にずつとついて行こうと思ひ、ピツタリついて走つていたのですがだんだん息が荒くなり、もうつかれてきたと思つたら、少しづつ今別が遠くになつて行きます。ますますつかれてくるし、歩いてしまおうと何度か思いました。でも歩いてしまえばもつとつか

れるし、もう走るのもいやになる。こうなればゆつくりでもいいから最後まで走るしかなかった。でも、だいぶ走つた様な気はするけど、まだいっこうに中継地点は見えないし、応援してくれている人たちは、もう少しだという。私は応援してくれている人たちにあきれてしまった。やつとの思いで中継地点の見える所までやつて来た。私のつぎに走るのは私の弟だ。そして弟が私に手をふつているのを見ると、さつぱりした。気のぬけるような思いだった。早く家に帰つてねむりたい気分だった。

でも今こうして考えてみると、とつてもすばらしい思い出のひとつになつたようです。



第三十五回人権週間

本年は、国連で世界人権宣言が採択されてから三十五年目に当たります。

我が国では、毎年、世界人権宣言が誕生した十二月十日を「人権デー」と定め、十二月四日からこの人権デーまでの一週間を「人権週間」として、人権意識の普及と高揚を呼びかけています。本年も、法務省と全国人権擁護委員連合会の共催で、「第三十五回人権週間」として、各関係機関及び団体の協力の下に、広く国民に呼びかけ、人権思想の普及と高揚を図ることになりました。

今回の強調事項は、「人権の共存―互いに相手の立場を考へて豊かな人間関係をつくらう」、「部落差別をなくせう」、「婦人の地位を高めよう」及び「障害者の完全参加と平等を実現しよう」の四項目です。当村では十二月九日中央公民館において「人権相談所」を開設する予定です。

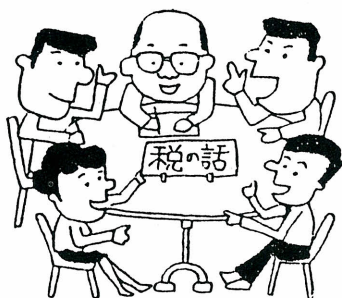
当村には、次の人権擁護委員がおります。

中沢 坂本繁男 (☎二二〇八)
瀬辺地木村金助 (☎二二二二)
人権問題や法律問題でお困りのときは、気軽にご相談ください。

◎税を知る週間

十一月十一日から十七日までは「税を知る週間」です。国は、私たち国民が豊かで安定した暮らしができるように、幅広い活動を行っています。

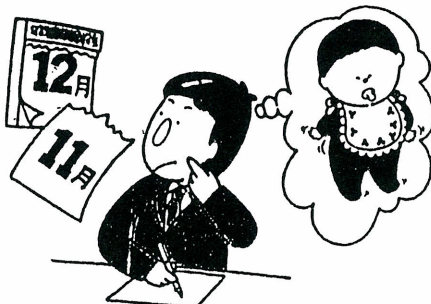
税金は、このような活動の大切な財源です。この機会に、あなたも税金の仕組みや使いみちについて考えてみませんか。「この社会あなたの税が生きている」



◎年末調整

年末調整は、毎月の給料やボーナスから源泉徴収された所得税と、一年間の収入に対する正しい税額とを比べて、納め過ぎていたら還付され、納め足りないときは徴収する大切な手続きです。

このため、扶養家族に異動のあった人、保険料の控除を受けようとする人などは、勤務先に控除申告書を忘れず提出してください。



◎所得税第二期納期分の納期は十一月三十日まで

所得税の予定納税第二期分の納期は、十一月一日から十一月三十日までです。

期限までに納税されない場合は、本税のほかに、延滞税がかかりますから御注意ください。

なお、銀行などの預貯金口座から自動振替で納税する便利な制度もありますので、御利用下さい。

◎終戦当時の引揚者の方々へ

通貨、証券などをお返しています。

税関では、お預かりしている次の通貨、証券などをお返ししています。

●終戦後、外地から引き揚げられた方が、上陸港の税関、海運局に預けられた通貨、証券など

●外地の集結地において総領事館などに預けられた証券などのうち日本に送還されたもの

◇ 返還の申し出は、ご本人はかりでなく、ご家族の方でも結構です。お心あたりの方は、

〒〇三〇

青森市青柳一丁目一番一号

青森税関支署

電話〇一七七(三四七六〇)

へお問い合わせください。



教室の隅にひそみて「みだれ髪」
読みし十五の春し惚ばゆ

煤びたる「大地」を繰れば戦時下の
わが青春のあわく匂える

假名文字の地名を地図にたどりつつ
遙かなる国を夢想せし頃

下北の旅

△地蔵立つ参道ゆきゆける恐山

眞昼しづけく硫黄の香匂み

△血の池と賽の河原に石積みて

来たれば明るし極楽の浜

△こがれ来し大間岬の海峡なきて

昆布漁る舟のひしめく

△夏の日のあまねく照し浜庭に

昆布干しおる聚落の騒し

△空すみて大間岬の灯台は

海面しづかに際立って見ゆ

△灯台を指顧に見渡す出店にて

高ふ婦らも磯の香匂ふ

(以上六首 吉崎慶次郎作)

戸籍の窓



(蓬田村の人口：4,487人)

7月・8月受付分

◎お誕生おめでとうございます

- 中野 真希 (鉄・2女)
- 張間絵里子 (丈・長女)
- 川内 美紀 (正務・2女)
- 松本 隼 (康平・2男)
- 八幡 政利 (秀彦・長男)
- 倉谷 理史 (敏文・長男)
- 八戸 智子 (純一・長女)
- 坂本 教平 (豊昭・2男)
- 福田 栄吉 (幸生・2男)
- 藤本 奈七 (伸明・長女)
- 川崎 進 (勝年・長男)
- 佐井 雄一 (賢一・長男)
- 田中 翔子 (憲仁・長女)
- 工藤 幸子 (三男・長女)
- 山谷 真弓 (憲雄・長女)

◎ご結婚おめでとうございます

- (川崎 清春 (広 瀬)
- (中村千穂子 (蟹田町)
- (横山 秀樹 (蟹田町)
- (中川 秀子 (郷 沢)
- (八幡 昭夫 (高 根)
- (高坂八重子 (青森市)
- (工藤市五郎 (長 科)
- (坂本美智子 (中 沢)
- (山本新太郎 (平内町)
- (木村美智子 (中 沢)
- (田中 由弘 (蓬 田)
- (工藤 敦子 (青森市)
- (坂本 寛人 (中 沢)
- (鈴木 幸子 (蟹田町)
- (葛西 章博 (青森市)
- (川崎真里子 (広 瀬)
- (武井 光明 (蓬 田)
- (田中 恵 (蓬 田)
- (稲葉 宏 (高 根)
- (山本ひとみ (青森市)

◎お悔やみ申し上げます

- 坂本松太郎 (中沢・81歳)
- 坂本 ちさ (中沢・91歳)
- 張間 由吉 (長科・86歳)
- 吉田 政一 (中沢・57歳)
- 稲葉清之丞 (高根・68歳)
- 青木 サナ (蓬田・80歳)
- 武井富治郎 (蓬田・77歳)
- 松本 みん (長科・88歳)

村民文芸欄

川柳

親と子の絆継つ切る刃物ない
 ヤマセ風き神の恵みか後ぬくみ
 逆境に女は弱く母強し

台風がそれて平穩米リンゴ
 冷害を克服稲穂重く垂れ
 稲刈りに爺も手傳うわら始末

(以上六首 吉崎勝三郎作)

12月は公給領収証

発行強調月間です

公給領収証ってなに？

これは、旅館等へ宿泊した場合や、飲食店等で飲食した場合にかかる料理飲食等消費

税を支払った際に、お店の経営者が税金を受け取ったしるしとして必ず発行しなければならぬものです。
 嫌わないで、笑顔でもらってください。



あ と が き

今回より、出稼文集「みずどり2号」に掲載されました小・中学生の作文を紹介します。

出稼先のお父さんを思う心、帰ってきた時の喜びなどが伝わってきます。体に気を付けて頑張ってください。

